



先端社会科学研究所長の劉先生(中央⑤)と著者(中央④)らによる集合写真

先端社会科学研究所の劉先生(中央⑤)と著者(中央④)らによる集合写真。写真には、研究所のメンバーと著者が写っています。背景には研究所の建物が見えます。

工科カレッジ、および、シエラブツエ・カレッジの2つのカレッジからそれぞれ教員1名と学生5名、合計12名が招聘者として選ばれた。プログラムの内訳は、早稲田大学における学内プログラムと学外における視察・フィールド調査の大きく2つに分類される。学内プログラムとしては、本学の3つのキャンパス(早稲田、西早稲田、所沢)におけるツアー、本学教員による特別講義や国際ワークショップ、本学学生との交流イベントなどが実施された。一方、学外プログラ

◎プログラムの特徴と成果

ここからは、今回のプログラムのなかで特徴的な2つのプログラムを取り上げ、その成果についても触れていきたい。まず、2日目に実施した国際ワークショップを紹介しよう。このワークショップは、都内の谷根千(やねせん)エリアでの街歩きを通して、先端的な都市である東京の中で比較的伝統的な街並みが残る同エリアにおいて、古い建物が消え高層ビル群へと置き換わっていく様子を肌で感じながら、「伝統を守るとはどういうことなのか」を考えていただくことを企図して開催された。

◎招聘プログラムの概要

早稲田大学先端社会科学研究所では、2019年12月11日から12月17日まで約1週間の日程で、ブータン王立大学(RUB)から教員・学生を招聘するプログラムを実施した。科学技術振興機構(JST)の支援によるブータン王国からの招聘は2016年度、18年度に次いで3回目となる。19年度の実施テーマは、「ICTを基盤とするコンテンツ産業とそれを通じた社会的イノベーションの実践」とした。RUB傘下のジグメ・ナムゲル



藤原 整 (早稲田大学先端社会科学研究所 招聘研究員)

!!特別シリーズ!!

科学技術振興機構 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第234回

早稲田大学の活動報告

※現在、さくらサイエンスプランは新型コロナウイルスの感染防止のため、今年度のプログラムの実施を延期しています。

Table with 2 columns: Day (1日目 to 7日目) and Program details (e.g., 羽田空港到着, 日本科学未来館見学, etc.)



早大アーチェリー部との交流会



谷根千エリアにおける街歩きワークショップ



デジタルハリウッド大におけるiPadを利用したポスター作成の状況下でも実施可能なオンラインプログラム企画に着手しはじめたところである。過去に招聘した学生の多くはすでにRUBを卒業してしまっており、RUB側の企画調整に難航しているが、まずは、日本に関するブータン人学生とブータン人学生との交流会のようないきいきと取り組んでいる。



ブータン人学生による早大生向けのプレゼンテーション「さくらサイエンスプラン」に応募し、その縁を広げていきたいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、ブータンからの招聘は断念せざるを得なくなりました。本稿を執筆時点(2020年10月)で、未だ収束の兆しすら見えないが、この状況下でも実施可能なオンラインプログラム企画に着手しはじめたところである。過去に招聘した学生の多くはすでにRUBを卒業してしまっており、RUB側の企画調整に難航しているが、まずは、日本に関するブータン人学生とブータン人学生との交流会のようないきいきと取り組んでいる。

もあつたが、伝統文化を守ることを国是とするブータンの招聘者たちにとっては一様に、自国の将来を考える良いきっかけとなったようであつた。また、それぞれのグループにサポーター役として早稲田大学の学部生が1〜2名ずつ編成されたが、彼らにとっても、東京の下町を歩く経験は稀有であり、さらに、初めて日本を訪れた異国の視点から見ると、東京の「伝統」と自分たちの考える伝統との差異を通じて、短くとも中身の濃い異文化体験をしたようであつた。

もうひとつは、早稲田大学を会場として開催された「BHUTAN DAY 2019」と題するイベントへの参加である。同イベントは、民間レベルの日本・ブータン間の交流組織としては国内最古かつ最大である日本ブータン友好協会が、毎年、「ブータンの建国記念日(12月17日)」にあわせて開催しており、招聘プログラムは、このイベント時期と重なるように設定された。その企画は、招聘者たちによって長年ブータンとの架け橋となってきた方々、あるいは、日本在住のブータン人留学生たちとの交流を大いに楽しんでもらうことはもちろん、この招聘プログラム自体が、ブータンと日本の友好の架け橋となる

ことを期待したからである。国王来日や国民総幸福(GNH)への共感など、日本国内におけるブータンという国の知名度は低くはないが、それと比して、日本でブータンと実質的な交流がある人や日本国内に住むブータン人の数は決して多くはない。RUBと早稲田大学という大学間の交流に留まらず、ブータンと日本という二国間の交流を促す意味でも、本プログラムは意義深いものであつたと考えている。

◎ブータンと早大の縁を広げる

このプログラムは、報告者がブータンにおいて長年フィールドワークを行っており、RUBとの間で研究協力関係を築いてきたことを機にスタートした、言わば個人的な縁に依るものだが、実はブータンと早稲田大学の縁はそれだけではない。例えば、平山雄大先生(平山郁夫記念ボランティアセンター講師)は、2018年度から「ブータンから学ぶ国家開発と異文化理解」と題する授業を開講し、毎年、10名程度の学生をブータンへ連れて行っている。さらに、おそらく早稲田大学初のブータン人教員であるシガワン・デンドウツプ先生(政治経済学術院助教)は、RUBの講師を経て早稲田大学の博士課程へ進学し、博士号を取得している。

2020年度も引き続き「さくらサイエンスプラン」に応募し、その縁を広げていきたいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、ブータンからの招聘は断念せざるを得なくなりました。本稿を執筆時点(2020年10月)で、未だ収束の兆しすら見えないが、この状況下でも実施可能なオンラインプログラム企画に着手しはじめたところである。過去に招聘した学生の多くはすでにRUBを卒業してしまっており、RUB側の企画調整に難航しているが、まずは、日本に関するブータン人学生とブータン人学生との交流会のようないきいきと取り組んでいる。